

アドベント第四主日礼拝 説教「お言葉どおり成るように」要約

ルカによる福音書 第1章26節～38節

日本キリスト教団 茅ヶ崎堤伝道所 2022年12月18日

① 救い主となるイエス誕生の告知

「六か月目に」と始まるのは、ガブリエルがザカリアに現れて、ヨハネ誕生の予告をしてから、という時をさしています。今回、天使はナザレに住むマリアの所に遣わされました。ナザレは「ガリラヤの町」(26)だという説明がありますが、特別なところが何もない、小さな村でした。そこに住むマリアもまた普通の娘でした。ただ、マリアはダビデの家系のヨセフのいいなづけでした。天使がマリアの所に来て最初に言った言葉は「おめでとう、恵まれた方」でした。出会っていきなり「おめでとう」と言われたら、何があるのかと思うでしょう。マリアもそうでした。しかも、自分のことを「恵まれている」と言われたのですから、ますます戸惑います。そこで天使ガブリエルは、ザカリアに言ったと同じ言葉を口にします。「マリア、恐れることはない」。そして神からいただいた恵みが「身ごもって男の子を産む」ことだと告げたのです。生まれてくるイエスは「いと高き方の子」(32)。更に「神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる」と言いました。

② マリアはどんな人だったのか

聖書には特に記されてはませんが、確かなことは、特別に目立つところにいたわけでもなく、秀でた存在でもなかったということです。小さな村に住む、ある意味平凡な娘であったと言えるでしょう。そんなマリアの所に、天使ガブリエルが現れたというのは、驚くような出来事なのです。それは人知れず起こったのですが、この時の天使とのやり取りを通して、マリアがどのような人柄だったのかを知る事ができます。いきなり天使に声をかけられ、マリアは戸惑い、どういうことなのかと考え込みます。マリアは正直な人です。慌てることなく、自分で事態を理解しようとし、大げさに驚いたり、逃げ出したり、逆に感動したりという反応をすぐにしない、思慮深い人です。天使が告げたのは、あまりにも大きな神のご計画に自分が用いられる母となることでした。正直なマリアは、「どうしてそのようなことがありえましょうか」と問いますが、天使はそれに対して答えます。そしてマリアは、エリサベトの妊娠というしるしが与えられたのです。

③ お言葉どおり成るように

マリアはヨセフと結婚の約束をしていましたが、まだ約束をしているだけです。だから、そんな自分に子どもが産まれるはずがありません。一番大事な疑問をマリアは天使にぶつけます。それに対して、子どもは聖霊の力によってうまれるのであって、神にできないことは何一つないと天使は答えました。全ては神様から始まるのです。その中で、マリアは一つの役割を果たすことになるのです。だから、マリアは神様を信頼してお任せするだけです。天使ガブリエルとのやり取りを通じてマリアが最後に口にすることは「お言葉どおり、この身に成りますように」ということでした。自分が用いられることを知ったマリアは神の力を信頼していることを言い表します。「できないことは何一つない」(37) 神と人間である自分との関係を、マリアは理解している人なのです。天使は「おめでとう」といいました。でもマリアには不安の方がおおきかったことでしょう。実際、イエス様のお母さんになることは大変です。大きな苦しみを引き受けることでもありました。やがて自分の子が十字架につけられるのを見ることになるのですから。が、共にいてくださり自分を用いてくださる神様に、マリアは「お言葉どおり成るように」と告白しました。